小中一貫校　南アルプス市立櫛形中学校　「学校だより」　第１１号　２０２３．９．１（金）

あ　や　め

Aim High

文責：生徒指導主事　川崎幸司

本校代表が，「南アルプス署管内防犯・交通安全弁論大会」に出場しました

８月２９日（火），あやめホールにおいて

＜南アルプス署管内　防犯・交通安全弁論大会＞

が行われました。本校の今年度の代表は，防犯弁論に2年生の春日一心さん，交通安全弁論に1年生の土屋和奏さんが出場しました。春日さんは自身や家族の体験を堂々と発表しました。また，土屋さんも臆することなく，自身の体験をまじえて優しい口調で聴衆に語りかけました。結果は，土屋さんは入賞，春日さんは優良賞に選ばれました。以下は二人の弁論の原文になります。どうぞご覧ください。

交通安全弁論の部　入賞

「楽だから」

櫛形中１年　　土屋　和奏

『思考に気をつけなさい。
　　それは，いつか言葉になるから。
言葉に気をつけなさい。
　　それは，いつか行動になるから。
行動に気をつけなさい。
　　それは，いつか習慣になるから。
習慣に気をつけなさい。
　　それは，いつか性格になるから。
性格に気をつけなさい。
　　それは，いつか運命になるから。』

これは，様々な人が同じようなことを言っていますが，日本ではマザー・テレサの言葉として知られています。この言葉の中には，交通事故を少しでも減らそうとする活動そのものに，大きな示唆を与えてくれるものが眠っています。

交通事故をなくすにはどうすれば良いのか。誰もが一度は考えたことがあるのではないでしょうか。私の中学校でも，委員会などで交通安全ポスターを作ったり，当番を決め，通学路で安全注意を呼びかけたり，様々な活動をしています。そのことは，一人ひとりの安全に対する意識や理解を深め，交通ルールの徹底につながっているはずです。

警察庁交通局が提示している「令和四年における交通事故の発生状況について」の『交通事故死者数』によると，令和二十四年と令和四年を比べ，事故による死者数は１８２８人も減少，また，歩行中の死者数も６８７人減少しています。つまり，交通事故は全体的に減少しつつあります。とは言っても，さらに詳しくみてみると，歩行者の事故は横断歩道上に含めて，道路を渡るときが最も多いのです。それなのに，よく道路を横断歩道を使わずに渡っている人を見かけます。とても危ないですよね。なぜそうしてしまうのでしょうか。・・・その最大の理由は，「楽だから」。わざわざ横断歩道まで行ったり，立ち止まったりすることを，面倒だと思ってしまう。これは，一人ひとりの意識の薄さだと思います。

かく言う私も，実はその一人です。朝急いでいるとき，車が来ないと思ったとき，少し遠回りすれば横断歩道があるのに，ない所で渡ってしまう。私の内（なか）でも普通にもう習慣化されてしまっている行為です。「楽をしたい」「面倒だ」「まぁいいや」。そんな軽い気持ちが，考えが，自分の人生を大きく左右する。毎日のようにニュースで報道される交通事故。「危ないな」「気をつけなきゃ」そう思っても，心のどこかで，他人事だと思ってしまっているのでしょう。

辛く，痛く，悲しい思いをする人を少しでも減らすために，私たちにできることはあるはずです。例えば，フィンランドで始まった，横断歩道のトリックアート，歩道を示す白線に影をつけることで，白線が立体となり，宙に浮いている様に見え，これを見た運転手は思わず速度を緩め停止する。このことにより，事故がほとんどなくなり，運転手側も必ず一時停止するようになったそうです。その他にも様々な取り組みが各国で行われています。

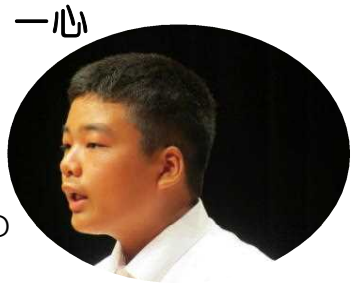
さて，もう一度マザー・テレサの言葉を思い起こしてみましょう。（楽をしたい）そんな考えが，「楽をしたい」と言葉になり，またそれを繰り返し，習慣になる。面倒なことはしない性格になり，それが，自分の運命になる。ほんの小さな邪気が，自分の運命を変えてしまうかもしれないのです。最初から大きなことをしなくても，「自分の思考に気をつける」という小さなことから始めてみてはどうでしょうか。それがまず第一歩です。

交通事故は，ゼロにはならないかもしれません。でも，私は，そして私達は，交通事故をゼロに近づける努力をするべきだ，と心から思います。

防犯弁論の部　優良賞

「命とは」

櫛形中２年　春日　一心



お墓参りに行く度にお菓子やおもちゃ，缶ジュースなどが置いてあるお墓があり，とても気になったので，母に聞いてみました。すると，こう教えてくれました。「産まれる前や産まれて間もないのに死んでしまった赤ちゃんたちのお墓だよ。」と。

世の中には，短い一生になってしまう子どもが少なくありません。

僕の弟は，母のお腹のなかで一度仮死状態になりました。胎児仮死というものだそうです。ある日，お腹の中にいる弟の脈拍がおかしくなりました。前日のエコー検査では異常もなく，とても元気だったのに…。

実は，破水のときに母の便が弟の肺に入り込んでしまったのです。

「無事に産むことは難しい。産めたとしても，言語障害や歩行障害が残ってしまう可能性が高い」とお医者さんに言われました。母は緊急帝王切開手術をすることになりました。

お腹から出てきた弟は，呼吸をしておらず，全身が真っ黒で，だらんとした状態だったそうです。すぐに人工呼吸が行われました。「死」が頭をよぎりました。母と父はただ祈ることしかできませんでした…。

そのとき，奇跡が起こりました。弟が産声をあげたのです。十人もの先生方が付き添ってくれていました。

僕の弟は，一度死を体験しました。けれど弟は今年で十一歳になり，後遺症もなく元気に過ごしています。

弟のように，産まれたばかりの小さな赤ちゃんでも，懸命に生きようとしているのです。そんな一つの命を救うために全力を尽くしてくれる人もたくさんいます。

しかし，懸命に生きようとしても，どんなに手を尽くしても，病気や事故で命を失うこともあります。

「無事に生きている」ということは，「奇跡」なのです。

それなのに，小さな子どもが親に殺されてしまうというニュースをよく目にします。

この間も，布団に灯油を染み込ませ，その上に赤ちゃんを寝かせて殺したという事件がありました。せっかく無事に産まれた命なのに，親が奪ったのです。

命とは，何よりも尊い大切なもの。僕は弟が命がけで産まれてきたことを間近で見聞きし，命の大切さを実感しています。だからこそ，粗末にしてはいけないと強く感じるのです。理由が何であろうと絶対に命を奪ってはいけません。それは，自分の命であっても同じです。

僕は，小学生の頃，いじめられていました。「死にたい」と思うほど追い詰められていました。

そんなとき，僕の変化に気づいてくれた友達が，一人いました。その友達が，「悩んでいるなら全部話してほしい。」と声をかけてくれたので，勇気を振り絞って相談しました。

次の日，友達が僕をいじめていた人たちを連れてきました。「ごめん。」彼らは言いました。その友達が，彼らに僕の気持ちを伝えてくれたのです。

僕にも味方がいたのだと気づきました。そして，「死にたい」なんて考えてはいけないと思い直しました。

今，死にたいと思っている人，一人で悩みを抱えている人に伝えたいことがあります。

それは，「一人で悩まずに，誰かに相談してほしい。」ということです。

誰かに話すことで悩みが解決するかもしれません。話を聞いてもらうだけでも，気持ちが楽になるかもしれません。

もし，身近に相談できる人がいないのなら，児童相談所や，市や国が行っている相談窓口もあります。誰でもいいから，頼ってください。

「命」とは，たくさんの人たちの助けがあって成り立っているものです。

あなたの命は，あなただけのものではない。お父さんやお母さんが，医療関係者の方々が，友達が，周りのいろんな人達が，救い，守り，育ててくれた命。

たくさんの人たちに支えられながら生きているということを決して忘れないでください。

世の中には生きたくても生きられない人もいます。

だからこそ，今ある命を大切に生きていきませんか。

今，こうして生きているということは「奇跡」なのですから。